小須戸公民館報

発行所 小須戸町 中央公民館
発行人 成田常信
発行日 毎月15日
印刷所 (有)昭栄堂印刷所

学校開放講座に寄せて

── 生涯学習に向けた取り組み ──

新津南高等学校長　惣山益雄

「生涯教育」とか「生涯学習」とかいうことが盛んにいわれています。巷にはカルチャーセンターの種々のたぐい、そして公民館はじめ多くの完備した学習施設が住民の教育的・文化的要求に応えてくれます。世はあげて生涯学習時代に突入といった感さえいたします。

時あたかも、つい先頃、教育改革に関する臨時教育審議会第二次答申が出されましたが、その主眼は生涯学習体系への移行をめざし、人生の各段階の要請にこたえ、新たな観点から家庭教育、学校教育、社会教育など各分野の広範な教育・学習の体制や機会を総合的に整備することを求めたものであり、前述のような傾向に対しても、一つのはっきりとした方向づけを与えたものということができましょう。

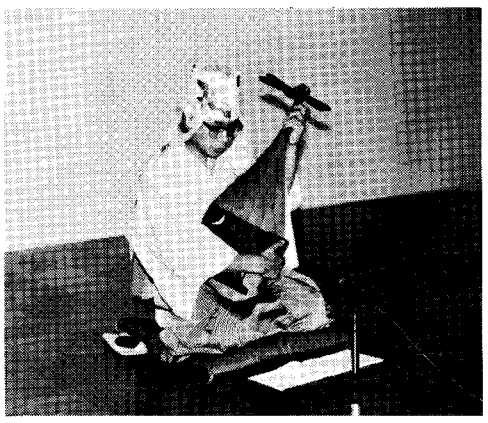
こうしたなかで、県教育委員会でも昭和五十七年度から生涯教育推進事業を始め、各種の事業を行っていますが、本校のこのたびの学校開放講座もこの事業の一環として行われるもので、そのねらいは高等学校の持つ教育機能を地域の方々に広く開放し、活用していただこうというものであります。

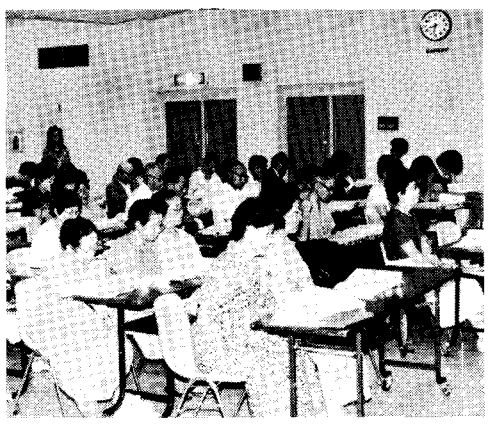
今年度は、県内では他に九か校が開設していますが、講座の種類では時節柄パソコン基礎講座がもっとも多く、六か校となっております。

本校では一般教養講座ということで計画いたしました。幸い本校には教師陣として各専門分野で力量のある個性豊かな先生方がそろっています。今回はこの中から四人のベテランの先生方の協力を得ました。

講座は全部で九テーマで、「古典及び地域の自然と文化に触れる」を重点課題として設定しました。内容は次表のとおりで、日程は六月末から十月中旬まで、会場は町中央公民館及び野外巡検となっております。

講座はすでに四テーマを終了しましたが、小須戸町だけでなく町外からも予想以上に多くの方々の熱心な参加があり、主催者として大変喜んでいます。この後も興味と関心に合わせてできるだけ多く参加されますよう願っております。終わりに、この講座が地域の方々の学習に少しでも役立ち、学ぶことがそのまま「生きがい」につながることになれば望外の幸せであります。





小林均先生による平家琵琶の講座風景

月　日(曜)	内　容	担　当
6・28(土)	開講式・講話「地域文化の諸問題」	惣山益雄
7・11(金)	山菜と薬草の話	和泉修治
7・25(金)	平家物語と平家琵琶	小林均
8・3(日)	山菜と薬草を求めて(笹神村県民憩いの森・薬草園)	和泉修治
8・24(日)	地域史を歩く(野外巡検)	木村宗文
9・5(金)	護魔堂山周辺の歴史的環境	同上
9・19(金)	能と謡曲	小林均
10・3(金)	式内社と古代集落	木村宗文
10・11(土)	講話「アメリカの子育てと日本の子育て」・閉講式	臼井茂夫

第八回 連盟設立設立記念大会

恒例の連盟設立記念大会は、去る七月二十日(日)に熱戦が繰り広げられ、次のような結果となりました。

Aブロック 優勝　竹井機器
準優勝　最終会
Bブロック 優勝　新栄クラブ
準優勝　四葉クラブ
Cブロック 優勝　金山ビギナーズ
準優勝　四葉会

また七月二十七日(日)の第五回会長旗大会では、優勝友交クラブ・準優勝金山ビギナーズという結果となり、勝ち抜いた両チームの健闘が光りました。

尚、町民野球大会を九月中旬に予定しております。詳しくは教育委員会へお尋ねください。

全国教職員剣道大会へ出場

小須戸小学校教諭、坂井敏明先生は、去る八月九日に岐阜県大垣市で開催された全国教職員剣道大会に県代表として出場し健闘されました。

県中学校総体 小須戸中学校成績

第十七回県中学校選抜総合体育大会が七月二十八日～二十九日まで行われ、小須戸中学校は次のような成績でした。

◇軟式庭球
女子団体　第三位
男子個人　小林・川瀬組　第三位。小林・川瀬組は北信越大会に出場。健闘を祈ります。

◇陸上　女子走り高跳び
第二位　荒井亮子　1メートル50

走り高跳びで荒井優勝
全日本中学校通信陸上競技大会新潟県大会

去る七月十八日、新潟市に於いて開催された通信陸上の県大会では、共通走り高跳びで、小須戸中荒井亮子さんが1メートル62の自己ベスト記録で優勝しました。

尚、来たる八月二十三日から二十四日に東京駒沢競技場に於いて行われる全国大会へ出場します。健闘を祈ります。

県展入選作品　書道部門

「唐詩」
新町四　菊地　閑月
(伸一)
入選十二回

色々傾向を変えながら書くうちに結局こんな表情の作品となりました。趣味ながら二十年、その厳しさ、楽しさと同居した結果がこの作品となりました。

「情詩二首」
新町三　佐藤　竹翠
(仁)
入選十八回

作品は全体に黒が多すぎて濃くなり、感情を表面に出しすぎてしまいました。もうすこし、さりげなく書けばよかったと思います。

健康づくりに富士登山

新保地区の高齢者グループ

新保地区の高齢者のグループ十七名(六十歳以上十一名外若い人含む)が、去る七月二十日から二泊三日の日程で健康づくりに富士登山を行いました。

一生に一度登ってみたいという仲間の声を聞いた丸山庄一さん(66)が、一度登った経験を生かして計画し、富士登山が実現したものです。「足を鍛えること、ひいては健康保持が目的でした。」と丸山さん。またグループの中では一番高齢の川瀬津十郎さん(76)は「山頂は最高の気分でした。健康に自信が持てました。」と話してくれました。

(写真の一番手前が川瀬さん)

柔剣道振興会だより

合＊宿＊終＊る

夏季剣道合宿講習会は七月三十日から八月三日までの四泊五日間、笹神中学校を会場に開催されました。猛暑の中当町から小中学生二十九名、一般五名の参加で全員が最後までがんばりました。

最終日の三日には、昇段審査が行われ次の方々が昇段されました。おめでとうございました。

二段(一般)　風間栄一(若葉町一)　大竹とも子(新栄町三)
初段(中学生)　保科　稔　渡辺千秋　広瀬観樹
(8/6　五泉市に於いて)
二段(高校生)　増井　浩和　高山ルミ子　真柄　力

老連のハイキング

去る七月二十四日、老連の主催による恒例のハイキングが行われました。護摩堂山頂までの往復の計画で、参加者九十余名のうち八十歳以上のお達者老人十二名の参加がありました。

紫陽花の観賞、ゴルフ場見学などを行い、一人の落後者もなく無事終了しました。とても楽しく健康づくりができました。

成人式のお知らせ　日時／8月10日(金)　午前9時開会　会場／中央公民館3階ホール

天ヶ沢地区で七月より新生活運動実施

出産、入学、進学の祝、転勤のせん別、病気お見舞い、歳暮、中元、結婚祝儀などの最近のおつきあいは年々高額化の傾向にあります。このような時代の流れに対してある地域では「もっと質素でも心のこもった贈り物であれば良いのではないか…」という声が聞かれるようになり、今一度おつきあいの根本的な意味を考え直そうという意識が生まれてきました。

生活改善をめざす婦人研修会

中央公民館では去る三月に、各地域の婦人リーダーが参加し第三回婦人研修会が行われました。テーマにはかねてより提案のあった冠婚葬祭の話題を取り上げ、各地域で実践している申し合せの実情の報告で討議を進めました。最後に今後は各地域に帰って話し合いを進め少しづつでも実行しようという申し合せで終りました。

天ヶ沢での新生活運動の取り組み

婦人研修会の数日後、天ヶ沢地区では、ある婦人の提案に端を発し部落総会の議題に初めて生活改善のことが取り上げられました。その議題に対して何度か総会で討議を重ね、慎重にかつ専門的に実行に移すことになり、天ヶ沢新田新生活運動推進委員会（会長平間安雄・自治会長）を組織しました。

第一回推進委員会では、委員会内だけでの決定を避け「お互いに守ることが出来る具体的なものはどんなことか」を各組内（隣組）へ持ち帰ることとしました。そして組内で充分話し合いをして、意志統一された事項を第二回推進委員会に持ち寄り、全員が守れるのは何かを検討した結果次の事項について実行することになりました。**決定事項**

①病気見舞の内祝い（お返し）については、部落内三百円のタオルに統一を図り、それ以外は使わない。又、受け取らないこととする。②実施については昭昭六十一年七月一日からとする。③この運動を広く小須戸町全域に普及するよう極力働きかけをする。（部落内とは天ヶ沢第一・第二の百二十五世帯）

新生活運動推進委員会の今後

推進委員会では、今後も家族内・地域内での十分な話し合いを基本として、身近で簡単なものから徐々にこの運動を進めていくことにしたということです。会長は「この運動を進めるにあたり、勇み足は避け、慎重に審議して全員の統一した意見によって進めて行きたい。また今は部落内だけですが、徐々に町全体に広めて行きたいと考えています。」と話していました。

小須戸町では、水田、新保、横川浜、矢代田の一部で既に、色々の領域で生活改善の実績をつんでおられます。

他の地域でもこのたびの天ヶ沢地区の努力を参考にされて、より住みよい地域作りに励んでいただきたいと思います。

分館だより

小須戸分館

◆親子釣り大会

分館では、小学生を対象とした親子釣り大会を開催します。参加者は学年、氏名、父兄名を中央公民館に九月十日までにご連絡ください。

日時　九月十四日（日）午前五時二十分中央公民館前集合　十一時三十分帰館（表彰式）
会場　白根市笠巻地内
入賞　一等～三等まで六名、大物賞一名の計七名（入賞者を除く全員に参加賞）
会費　親子一組で五百円

車の関係で親子三十組をもって締切ります。

共催　中央公民館・小須戸町愛鱗連合会

◆婦人バレーボール初心者講習会

分館婦人部主催でバレーボールの初心者講習会を開催します。バレーボールの好きな方、経験の有無を問いません。どうぞお気軽にご参加ください。

日時　九月三日（水）より十月一日（水）の毎週水曜日、計五回、午後七時三十分より

会場　町民体育館
講師　森田　登先生

尚、参加ご希望の方は、中央公民館までご連絡ください。

新保分館

◆分館運動会開催

期日　八月十七日（日）
時間　役員集合八時　開会九時
会場　新保地域研修センター広場（雨天―中学校体育館）

皆んなで汗を流し楽しい一日にしたいと思いますので奮ってご参加ください。

横水分館

◆野球大会

日時　八月二十四日（日）午前八時開会式
会場　雁巻河川敷野球場

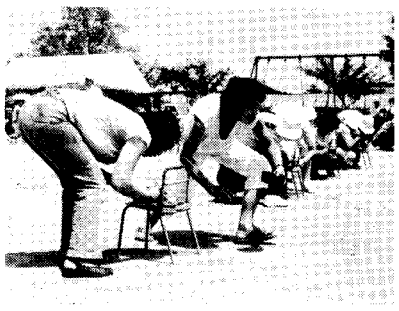
各地域とも奮ってご参加をお願いします。

主管　横川浜青年部

◆分館運動会終る

梅雨あがりの七月二十七日(日)横水保育園運動場にて分館運動会が行われました。最後の種目まで各チームとも接戦で、手に汗を握る競り合いでした。結果は次のとおりです。

一位横川浜チーム　**二位**水田チーム　**三位**文京町チーム　**三位**小向チーム



（写真は豆ひろいレースの一場面）

図書だより

一般図書

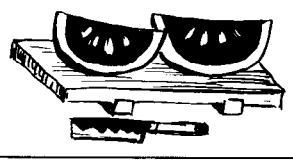
◇**良寛を歩く**　水上　勉
◇**ささやく河**　藤沢周平
◇**新翔んでる警視V**　胡桃沢耕史
◇**母さんの樹**　佐藤貴美子
◇**旅路**　辻　真先
◇**ドキュメント昭和**　NHK
◇**秀吉と武吉**　城山三郎
◇**恋愛届を忘れずに**　赤川次郎
◇**ウェディングドレスはお待ちかね**　赤川次郎
　外六冊

訂正　七月号、卓球全国大会の記事の中で誤りがありました。また短歌初心者教室の記事の中にも印刷落ちがありましたので訂正しおわび申し上げます。

正　中村晃さんは、東京代々木体育館で開催される全国高等学校定時制通信制卓球大会へ出場。
誤　中村晃さんは、長野県で開催の全日本クラブチーム卓球選手権大会へ出場します。

村山文子さんの作品――岩肌に打ち寄すしぶき口にしてまだ見ぬ佐渡の影望むわれ

催しものご案内



第十二回 町民展のご案内

今年も恒例の町民展の時期が近づいております。皆様の作品の準備はいかがでしょうか。奮ってご応募くださいますようお願いいたします。

会期　十一月一日（土）より三日（月）までの予定
会場　小須戸町中央公民館
主催　小須戸町文化協会
※詳しくは、来月号にてご案内いたします。

定期映写会ご案内

涼しい部屋で、皆んなと一緒に映画を楽しみましょう。親子でおいでください。

日時　八月二十九日（金）午後七時三十分より九時まで
会場　中央公民館二階会議室
上映映画　○うさぎとカメ　○海賊島の大冒険　○たんぽぽ　○おじいさんのランプ　外

連合婦人会より　お知らせ

健康体操と社交ダンスの会

日時　九月・十月・十一月の毎週火曜日　午後七時三十分より（但し九月二日、二十二日、十一月四日を除く）
会場　中央公民館三階ホール
講師　森田　登先生
主催　小須戸町連合婦人会

どなたもお気軽においでください。会費無料。

バドミントン・レディースクラブ　会員募集

バドミントンをわからない人、出来ない人、またはもっと上手になりたい人ぜひおいでください。お待ちしております。

日時　九月より毎週月曜日午後七時三十分より
会場　町民体育館（運動靴必要）
会費　一ヶ月五百円
対象　女性ならどなたでも
主催　バド・レディースクラブ
※申し込みは中央公民館まで。（TEL　三八―二三三四番）

写真クラブ展を開催

八月七日（予定）より一ヶ月間、安田アイランドのレストハウスにおいて小須戸町写真クラブの写真クラブ展を開催します。安田にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

寄贈御礼

水田、木村敏三郎様・矢代田森珠美様より図書を公民館図書室へ寄贈頂きました。また文京町一、島原喜一郎様より図書を横水保育園へ寄贈頂きました。大変ありがとうございました。

川柳教室作品

題「裸」

ポケットを探りならべる裸銭　清作
芸術を知ったか振りで観る裸婦像　ただし
マネキンは裸にされてお倉入り　武雄
両モモを叩いた逆転ホームラン　常信
奥の手に裸を見せる芸能界　利和
老いてなお童子にかえり水遊び　良平
裸でもよいと望まる三番娘　米二
世渡りに裸一貫気楽者　源吾
裸とは見えぬ電話の憨憨さ　キン
ステテコで男冥利の大ジョッキ　キヨノ
母の日に背を流し合う嫁姑　キヨ
チャイム鳴り裸ですよと待ったかけ　信子
赤銅の裸で押し合う夏祭り　春江
脱衣場ぬぎっぷり良さで目をそらす　タネ
応待の裸を詫びる女客　みな

中学生文芸

―俳句クラブ作品―

かわず鳴く夕暮れ時のたんぼ道　高野　純子
立葵雨の滴を葉に残す　川瀬　理恵
傘の花梅雨の晴れ間に散って行く　内山　香
紫陽花の葉茎をのぼるかたつむり　高野　尚子
透き通る花の数増す立葵　斉藤奈々恵
梅雨の空雲はいつでも無限大　真保　純子
梅雨時で屋内(やなか)での部活多くなり　井上ひろみ
葉のリレー梅雨の滴をバトンにし　風間　厚子
梅雨空の雲より見えるまぶしい陽　高野　綾子
梅雨の朝服の乾きに焦り出す　吉田美佐子
梅雨曇り時々見せる青い空　高山　由香
梅雨空を見ては傘持つ登校時　白井　美和
プールでは梅雨空気にせずはしゃぐ子等　荒木加代子
梅雨雲の矢代田山を包み込む　野崎　佳恵

七月例会作品

小須戸町俳句同好会

虎杖の藪へ雉の子たち走る　太浪
ワープロと対しておれば明易し　紀男
船を打つ飛沫嬉しき梅雨の阿賀　松山
川蟹の泡の合唱一斗缶　野蒜
芥分かつ櫂の細さや船遊び　露春
紫陽花に照る日曇る日妻の旅　越楼
野地蔵に山百合抱かせ野良帰り　冨沙子
青蘆を動かしながら釣師くる　香月
燕には梅雨の出水も常の川　素糸
紫陽花や野鍛冶の好み昼の酒　可津朋
明易し今見し夢のまとまらず　久子
看取りいて母と二人に明易き　ミナ
鉄線花垣にからみて忌中札　良遊
水無月やどこへも行かぬ髭を剃る　秀穂
短命の系累ときく額の花　美根子
栗の花匂いが追うてくる夜道　虚秋

短歌

燈籠のぶつかる音に杏き日の想い遥かに身体　我妻清作
火照り来
生業(なりわい)は裸で示す若者の精気はぜ合う夏祭来ぬ　伊藤照渓
家裏の杉鉾(はこ)ならぶ山里に声を揃えてかなかなの鳴く　加藤　茂